

テーマ (I) 政治思想・法哲学

- 1月 野口雅弘『マックス・ウェーバー 近代と格闘した思想家』(中公新書、2020年)
- 2月 蔭山宏『カール・シュミット ナチスと例外状況の政治学』(中公新書、2020年)
- 3月 住吉雅美『あぶない法哲学 常識に盾突く思考のレッスン』(講談社現代新書、2020年)

テーマ (II) 現代社会の行方？

- 4月 ブレイディみかこ『労働者階級の反乱 地べたから見た英国EU離脱』(光文社新書、2017年)
- 5月 コロナ禍のため中止
- 6月 斎藤幸平『人新世の「資本論」』(集英社新書、2020年)

テーマ (III) 日本史の一断面

- 7月 伊藤之雄『元老—近代日本の真の指導者たち』(中公新書、2016年)
- 8月 一ノ瀬俊也『東條英機』(文春新書、2020年)
- 9月 馬部隆弘『椿井文書—日本最大級の偽文書』(中公新書、2020年)

テーマ (IV) 探検

- 10月 北澤豊雄『ダリエン地峡決死行』(産業編集センター、2019年)
- 11月 角幡唯介『アグルーカの行方 129人全員死亡 フランクリン隊が見た北極』(集英社文庫、2014年)

テーマ (II) 現代社会の行方？

- 12月 堤未果、中島岳志、大澤真幸、高橋源一郎『別冊NHK100分de名著 メディアと私たち』
(NHK出版、2018年)